



2/18

省令様式 6 (第8条 第9条関係)

供 電 機	課 長 阪 崎	補 佐 松 原	係 長 伊 藤	主 員 山 本
-------------	------------------	------------------	------------------	------------------



特定施設設置 使用届出書

年 月 日

新潟市公共下水道管理者 殿

住所 新潟市附船町一丁目
 届出者氏名 新潟市立工業高等学校 校長 笹原平悟
 電話 (28) 5566



下水道法第12条の3第¹②₃項の規定により、特定施設について、次のとおり届け出ます。

工場又は事業場の名称	新潟市立工業高等学校	※整理番号	
工場又は事業場の所在地	新潟市附船町一丁目	※受理年月日	年 月 日
特定施設の種別	7/の2	※施設番号	
△特定施設の構造	別紙(1)のとおり	※審査結果	
△特定施設の使用の方法	別紙(2)のとおり	※備考	
△汚水の処理の方法	別紙(3)のとおり		
△下水の量及び水質	別紙(4)のとおり		
△用水および排水の系統	別紙(5)のとおり		

- 備考 1. △印の欄の記載については、別紙によることとし、かつできるかぎり図面、表等を利用すること。
 2. ※印の欄には記載しないこと。
 3. 届出書および別紙の用紙の大きさは、図面、表等やむを得ないものを除き、日本工業規格B5とすること。

1. 特定施設の構造

イ 特定施設の型式、構造、主要寸法および能力

名	称	型	式	構	造	主	要	寸	法	能	力	数	量
先	浄施設	段付型	(磁製)			406	×	273				12	
		バルブ付型	(磁製)			515	×	355				2	
		長角型				1,820	×	410				1	
		長角型				964	×	435				1	

ロ 主要機械または主要装置の配置

添付第 / 図のとおり

ハ 特定施設に係る工事の着手及び完成予定年月日並びに特定施設の使用予定年月日

工事着工予定年月日 昭和 年 月 日

工事完成予定年月日 昭和 年 月 日

使用開始予定年月日 昭和 年 月 日

ニ その他参考事項

2. 特定施設の使用方法

イ 特定施設の設置場所（添付第 / 図のとおり）

ロ 特定施設を含む操業の系統（添付第図のとおり）

化学薬品——実験——器具洗浄

ハ 特定施設の使用時間間隔および1日当りの使用時間並びにその使用の季節的変動の概要

名称	区分	使用時間間隔	1日当りの使用時間	季節的変動の概要	備考
洗浄施設		別表のとおり 8.30-1	≪時間	なし	

ニ 特定施設を含む作業工程において使用する原材料（消耗品を含む）の種類、使用方法及び1日当りの使用量

特定施設の名称	使用原材料の種類	使用方法	1日当りの使用量	備考
洗浄施設	別表のとおり	同左	同左	

別表 特定施設の使用時間開隔 (○印 使用)

月	火~土	時限	月	火	水	木	金	土
8:40	8:50	1						
~ 9:30	~ 9:40							
9:40	9:50	2		○	○	○	○	○
~ 10:30	~ 10:40							
10:40	10:50	3	○	○	○			○
~ 11:30	~ 11:40							
12:15	12:25	4			○	○	○	
~ 13:05	~ 13:15							
13:15	13:25	5				○		
~ 14:05	~ 14:15							
14:15	14:25	6	○				○	
~ 15:05	~ 15:15							

別表 化学実験用薬品及び使用量(年当り) =

薬品名	使用量	薬品名	使用量
塩化銅=銅	20g	酢酸鉛	150g
四塩化炭素	100 ml	硫酸亜鉛	50g
ナフタリン	110g	過マンガン酸カリウム	1g
安息香酸	14g	亜硫酸水素ナトリウム	25g
硝酸	15g	ヨウ化カリウム	17g
食酢	200 ml	重クロム酸カリウム	1g
塩化ナトリウム	50g	塩化ホースズ	20g
硫酸ナトリウム	15g	デンプン粉	5g
硝酸ナトリウム	20g	硫化鉄	550g
炭酸水素ナトリウム	9g	濃硝酸 60%	600 ml
塩化アンモニウム	65g	濃塩酸 35%	650 ml
塩化ホースズ	10g	濃硫酸 95%	1900 ml
酢酸	10 ml	過酸化水素水 3%	350 ml
塩化鉛	15g	アンモニア水 25%	10 ml
塩化カリウム	10g	エチルアルコール 99%	800 ml
テトラヒドロアルコール	150 ml	フェニルアミン	5g
塩化カルシウム	25g	硝酸鉄	20g
活性炭	10g	水酸化ナトリウム	520g
金属ナトリウム	5g	ヨウ素	2g
カリウム	5g	イタリ	5g
臭化ナトリウム	10g	鉄	250g
ヨウ化ナトリウム	10g	銅片	100g
硝酸ナトリウム	10g	亜鉛片, 亜鉛粒	100g
塩素水	500 ml	マグネシウムリボン	15g
臭素	1 ml	錫粒	50g
一酸化マンガン	50g	金箔	20g
硝酸銅	50g		

ホ 特定施設から排出される汚水等の量および水質（当該特定事業場から排除される下水に係る水質の基準が定められた事項に限る。）

施設名	水量・水質		水 質											
	排水量 (m ³ /日)		P		H		1		2		3		4	
	日間平均	最大	日間平均	最大	日間平均	最大	日間平均	最大	日間平均	最大	日間平均	最大	日間平均	最大

ハ その他参考事項

3. 汚水等の処理の方法

イ 汚水処理施設の設置場所 (添付第 図のとおり)

ロ 汚水処理施設に係る工事の着手および完成の予定年月日並びに使用の開始の予定年月日

工事着手予定年月日	昭和	年	月	日
工事完成予定年月日	昭和	年	月	日
使用開始予定年月日	昭和	年	月	日

ハ 汚水処理施設の種類、型式、構造、主要寸法および能力並びに汚水等の処理の方式

種 類	型 式	構 造	主 要 寸 法	能 力 (m^3 /日)	処 理 の 方 式	備 考

ニ 汚水の処理の系統（添付第 図のとおり）

ホ 汚水の集水および汚水処理施設までの導水の方法（添付第 図のとおり）

ハ 汚水の処理施設の使用時間間隔および1日当りの使用時間並びにその使用に季節的変動がある場合には、その概要

処理施設の名 称	使用時間間隔	1日当りの使用の時間	季節的変動の概要	備 考

ト 汚水の処理施設において中和、凝集、酸化、その他の反応の用に供する消耗資材の1日当りの用途別使用量

処理施設の名 称	消耗資材名	用 途	別 1日当り使用量	備 考

ス 汚水を公共下水道へ排除する方法（排出口の位置及び数並びに排出先を含む。）（添付第 図のとおり）

ル その他汚水の処理の方法について参考となるべき事項

4. 公共下水道への排出口における下水の量及び水質

イ 排水口の量および水質

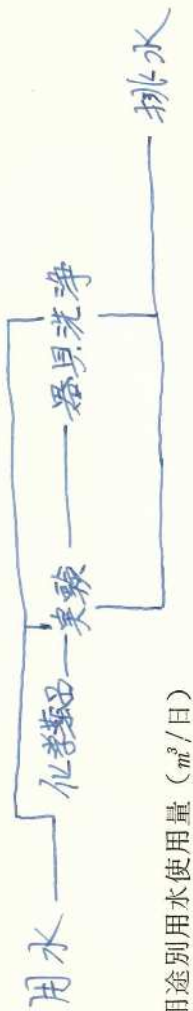
排水口別	水量・水質		水						質			
	排水量(m ³ /日)		P		H		虫		鉍		鉍	
	日間 平均	最大	日間 平均	最大	日間 平均	最大	日間 平均	最大	日間 平均	最大	日間 平均	最大
	3.6											

ロ その他参考事項

新潟市衛生試験所へ依頼

5. 用水および排水の系統

イ 用水および排水の系統



ロ 用途別用水使用量 (m³/日)

ボイラー水	原料用水	製品処理用水	洗浄用水	冷却用水	温調用水	その他	合計
			3.6				3.6

ハ その他参考事項

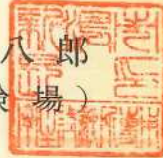


衛生試 第 1960 号

昭和 53 年 2 月 22 日

新潟市立
工業高等学校長 殿

新潟市長 川上喜八郎
(担当 衛生試験場)



試験成績について

昭和 53 年 2 月 17 日付 第 号で依頼の
試験成績は下記の通りでありますから御通知
します。

記

検 体 名	排水 1 件
採 取 日 時	昭和 53 年 2 月 17 日 ^{午前} 10 時 _{午後}
検 査 月 日	昭和 53 年 2 月 17 日
検 査 目 的	下水道法による 排水基準監視
検 査 法	JIS K0102 に準ずる
検 査 担 当 係 名	微生物係・食品係・ <u>水質係</u> ・大気係
備 考	検体は、依頼者の提出したものである。

試験成績

検査項目	成績
PH	6.8 ✓
Zn	0.48 ppm ✓
Pb	0.02 ppm ✓
Cu	0.033 ppm ✓

以下余白